第 5 回　加藤貴光　折り鶴平和音楽会

大志を受け継ぎ、想いをつなぐ音楽会

高校生の時、「世界平和に貢献する人材になる」ことを心に誓い、そのために最適と、神戸大学に一浪の末入学。その後、まさに志半ば、3 年生になる直前の 21 歳で阪神淡路大震災に命を奪われた加藤貴光さん。国連職員をめざして猛勉強し、2 年生のときに書いた日韓関係に関する論考は、国際ジャーナリストの落合信彦氏を唸らせたほどでした。

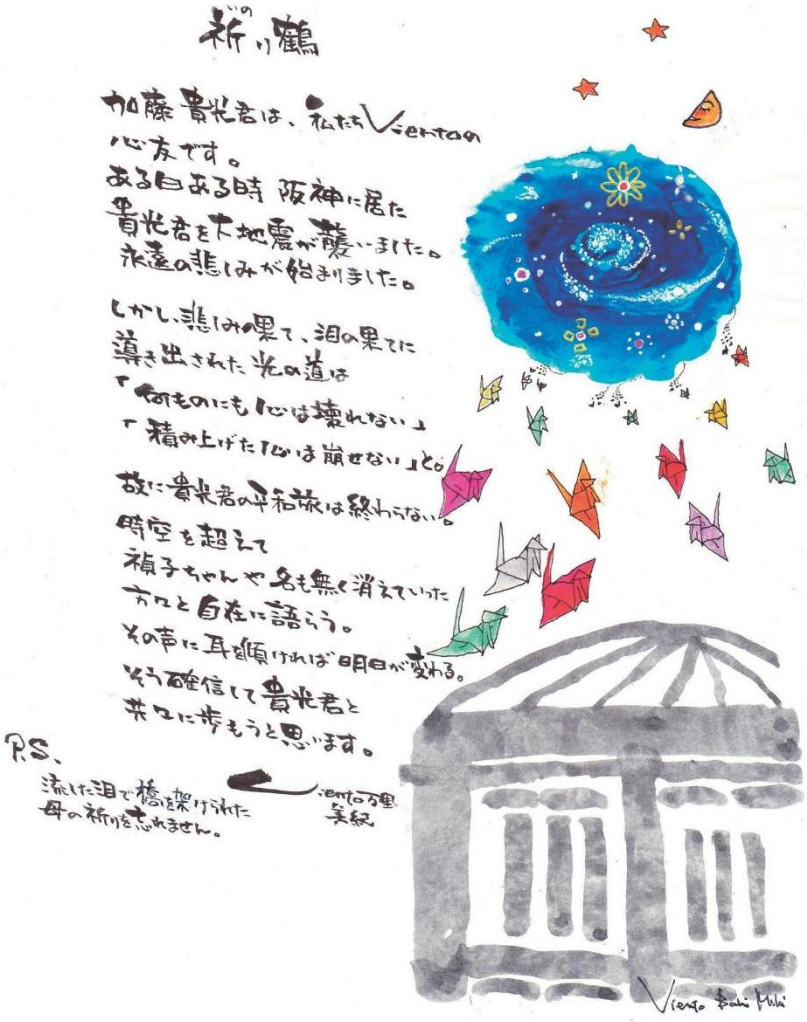
その大志は、神戸大学入学の際に、母である加藤りつこに手渡した手紙の存在を通して、世につながりました。「親愛なる母上様」と書き始められたその手紙は、深く癒されぬ痛みから母を少しずつ救い、その救いを支えに、人と人のつながりを紡ぐ母の活動を通して、少しずつ世に知られていきます。

この音楽会は、加藤貴光さんの大志と、それを人に伝えつなぎたいと願う母の想いに心を震わされた、Viento（吉川万里さん・竹口美紀さん）のお二人によって、2018 年 12 月に熊本で始められました。以後、広島と熊本で交互に開催され、コロナ禍を経て 5 回目の今回は広島での開催となります。

Viento のお二人と加藤りつこを深くつないだのは、放浪の音楽家・奥野勝利さん。偶然知った「親愛なる母上様」の手紙に、導かれるように曲をつけ、自ら歌い、それを偶然見出だした加藤りつこととともに世に伝える活動を始めたころ、吉川万里さんに出会いました。音楽家同志、感性に惹かれ合い、勝利さんは万里さんを師と仰ぎ、生き様を写し取ります。

もうお一人。「世界平和に貢献する人材になる」と誓ったころの高校生の加藤貴光さんと、ご自身がパーソナリティを務めるラジオ番組を通して出会い、そのまっすぐな想いを感じと

った一文字弥太郎さん。その後の惨禍と遺された大志を知り、ラジオを通して、さらにVientoさんを番組に招き、音楽会にもメッセージと出会った当時の録音を提供し、貴光さんと加藤りつこの想いを世に伝えて来られました。

2022 年、奇しくもそのお二人が天に召されました。まだコロナ禍の勢いを残す 12 月、Viento のお二人は、前年は中止を余儀なくされた熊本での第 4 回音楽会を、困難を乗り超えて開催されました。“寄り添いの名人”だったお二人に届けたいとの想いで・・・。

まるで誰か大いなる存在が意図し、導き、導かれ、つながったかのようなこの音楽会。Vieoto のお二人の演奏、吉川万里さんの語ることばを通して、“受け継がれつながる大切な何か”を感じて頂くことが、目的であり、願いです。その何かが、ひろふくにつながり支えて下さる皆さまを通して、皆さまの回りにつながり、伝わることこそが、ひろふくの役割と考えています。